

学校長様  
生物科様

大阪府高等学校生物教育研究会  
会長 柴原 信彦

## 令和5年度(第52回)会員研究発表会開催について(依頼)

貴校ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は本研究会の活動に格別のご配慮をいただき、誠にありがとうございます。

標記の発表会を下記の通り開催いたします。校務ご多忙のことと存じますが、生物科等の教職員の出席について、ご配慮下さいますようお願い申し上げます。

### 記

- 日時 令和6年1月26日(金) 午後2時半～4時
- 場所 大阪府立夕陽丘高等学校(〒543-0035 大阪府大阪市天王寺区北山町10-10)  
\*交通: JR環状線「桃谷」駅より、西へ約0.5km  
Osaka Metro(谷町線)「四天王寺前夕陽ヶ丘」駅より、東へ約0.9km  
近鉄「上本町」駅より、南東へ約1.0km  
JR環状線・近鉄・地下鉄千日前線「鶴橋」駅より、南西へ約1.2km

### 3. 発表テーマ

- (1) 生物教育における「子ども中心」「帰納的アプローチ」偏重は正しい道なのか?** 河井 昇(府立天王寺高校)  
「見いだし」実践が求められ、教師が一方的に教え込むのをよしとしない現在の様相は「新しい学力観」が示された1990年代と類似する。市川伸一の「教えて考えさせる授業」についての紹介と、発表者の実践の変容とその評価を行いたい。
- (2) 小笠原利孝先生の著作『魯氏経済論』と福澤諭吉の『学問のすすめ』** 有明 京子(府立茨木高校)  
本校の特色をなす約千点の標本群は、明治30年の赴任以来約1万8千点を収集された博物教諭小笠原利孝先生によるもので、戦争災害を超えて現在も尚その教育的効果を失っていない。本校の教育方針は「自主自律」「勤儉力行」「実物・実験重視」であるがその源流はどこから来ているのか。彼の21歳の著作『魯氏経済論』よりその謎を読み解く。
- (3) 新学習指導要領への取り組みの現状 ―本校の現状と各校の報告並びに意見交換―** 中村 哲也(大阪国際高校)  
新学習指導要領に基づく授業および学習評価がスタートして、1年9か月余りが経過しました。この間、教育現場はどのように対応してきたのかを率直に振り返る、というのが本発表のねらいであります。発表者自身の現状報告、参加いただいた各先生方の現状報告と意見交換を織り交ぜ、直面している課題の共有と、できれば解決へのヒントを探りたいと思います。
- (4) 令和5年度森林生態部会現地研修の報告～能勢町地黄湿地・八尾市高安山から十三峠～** 高嶋 浩紀(府立伯太高校)  
森林生態部会では、春に大阪府内唯一の滲水湿地(湧水湿地)である地黄湿地において、秋に昔から花卉(かき)園芸が盛んで栽培されていた植物の種が鳥などに運ばれ、特異的に生育している植物が観察できる高安山から十三峠において現地研修を行った。これら現地研修のコースの紹介と、そこで見られた植物について報告する。
- (5) 動物園を高校でどう活用するか** 岡本 元達(教育大附属高校池田校舎)  
学習指導要領では「大学や研究機関、博物館などと積極的に連携、協力を図るようにすること」と記載されているが、高等学校と動物園の連携には課題があった。天王寺動物園と長年連携をとってきた中で動物園の連携で見えてきたこと、修学旅行先の動物園を活用することなどについて紹介し今後の動物園の活用の糸口を考えるきっかけとしたい。
- (6) 課題研究におけるテーマ・教材分析を通じた生物に対する生徒の興味関心の検証** 農野 将功(府立大手前高校)  
筆者の勤務校である大阪府立大手前高等学校は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けて本年度で16年目を迎える。そこで、本校SSHの主軸である課題研究において、生徒が独自に立てたテーマや、研究を遂行する上で選択した実験生物を分析することで、生徒の興味関心およびそれを生かした実験教材の開発の可能性を検討した。

#### 〈この件連絡先〉

大阪府高等学校生物教育研究会 行事係  
〒595-0012 泉津市北豊中町1-1-1  
大阪府立泉津高等学校  
生物科 濱野 彩  
TEL: 0725-32-2876 FAX: 0725-32-6394  
E-mail: T-HamanoA@medu.pref.osaka.jp